様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２２年　３月　３１日現在

研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2006～2009
課題番号：18500767
研究課題名（和文）　中世における「テトラビブロス」の伝承の研究

研究課題名（英文）　On tradition of Tetrabiblos in the medieval age

研究代表者
山本　啓二（YAMAMOTO　KEIJI）
京都産業大学・文化学部・教授
研究者番号：60329927

研究成果の概要（和文）：
プトレマイオスによる『テトラビブロス』のアラビア語校訂版を作成する過程で初めて得られた知見は、９世紀のフナイン・イブン・イスハークが改訂したとされるアラビア語写本が全部で９種類現存することが確認できたこと、サービト・イブン・クッラ（９世紀）がフナイン版にどの程度手を加えたかが判明したこと、そしてフナイン版とウマル版がともに、現存する唯一のシリア語写本から翻訳されたものではないことが判明したことである。

研究成果の概要（英文）：
We found new philological facts in a process of editing texts of the two Arabic translations of *Tetrabiblos* by Ptolemy as follows:
1) we have 9 kinds of Arabic manuscripts of Hunayn’s version,
2) we could ascertain how far Thabit ibn Qurra had associated with the Hunayn’s version,
3) neither version of Hunayn nor of Umar was translated from the Syriac version which survives as a unique manuscript.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	900,000	0	900,000
２００７年度	700,000	210,000	910,000
２００８年度	700,000	210,000	910,000
２００９年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,000,000	630,000	3,630,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史
キーワード：プトレマイオス、テトラビブロス、占星術、フナイン・イブン・イスハーク、ウ

マル・イブン・アル＝ファッルハーン

１．研究開始当初の背景

10 世紀の書誌文献であるイブン･アン＝ナディームの『フィフリスト』によれば、２世紀のアレクサンドリアで活躍した天文学者プトレマイオスが著した『テトラビブロス』がアッバース朝時代に２度アラビア語に翻訳されたこと、そして最初の翻訳に対してはウマル・イブン・アル＝ファッルハーンが要約を作成し、また、２度目の翻訳に対してはフナイン・イブン・イスハークが改訂をし、さらにサービト・イブン・クッラがその一部に手を加えたことになっている。しかし、現存するアラビア語写本を調べてこれらの記述を検証した研究は、今までまったくなされてこなかった。また、唯一残っている『テトラビブロス』のシリア語写本とアラビア語訳との関係も不明のままであった。

２．研究の目的

本研究の目的は，古代・中世を通じて占星術の「バイブル」と呼ばれ，さまざまな分野に多大な影響を及ぼした『テトラビブロス』の現存する２種類のアラビア語版テキストを校訂すること，そしてそれをもとに，一方ではギリシア語原典およびシリア語版と比較し，それぞれがどのような系統関係にあるかを調べ，他方では１２世紀にアラビア語から翻訳され、１５世紀に出版されたラテン語版と比較し，アラビア語版がどのように西欧に伝承されたかを調べることである。

３．研究の方法

まず、アラビア語の２つの版を校訂するために、現存するすべての関係するアラビア語写本のコピーを収集することから始めた。そのために、インドとイランの複数の図書館に直接赴き、写本の調査を行った。２種類の暫定的なアラビア語校訂版を作成した後は、それを、1998 年に校訂された最新のギリシア語版、ドイツ人研究者が現在進めているシリア語校訂版、そして 15 世紀に出版されたラテン語版と比較検討し、アラビア語のそれぞれの版との関係を調べた。シリア語の校訂版の作成は現在ドイツ人研究者が進めており、その研究を利用させてもらう予定であったが、結局それは未完成のままであり、校訂版の一部を利用できたにすぎなかった。

４．研究成果

まず、現存する写本の状況について言えば、今までの書誌文献でインドのハイデラバードの図書館にあるとされていた『テロラビブロス』の２写本(Sa`idiya Hait 32/2, Asafiya 79）はともに、タイトルに反して、実際には別の著作、すなわち、10 世紀の学者、クーシュヤール・イブン・ラッバーンの『占星術入門』であることが判明した。この著作は『テトラビブロス』を基にして、しかも同じ四部形式で書かれていたために混同されたと考えられる。また、エスコリアル図書館と英国図書館の写本（Escorial 1829/1, British Library or. 9115）は、カタログでは別のもののように記されているが、実際に内容を調べた結果、実は『テトラビブロス』であることは初めてわかった。前者は、カタログによれば、バッターニー（10 世紀）による『テトラビブロス』の注釈だとされ、また後者はカタログでは、サービト・イブン・クッラによる「占星術についてのプトレマイオスの書」となっていたものである。

最初のアラビア語訳をウマル・イブン・アル＝ファッルハーンが要約したとされる、いわゆる「ウマル版」の写本は以下の３種が、

(1) Cairo, Halil Aga, miqat 5 (ff.52, 1250H)

(2) Cairo, Dar al-kutub, miqat 123 (ff.75, 1250 H)

(3) Uppsala 203 (pp.151, 1304 H)

また、２度目の翻訳をフナイン・イブン・イスハークが改訂したとされる、いわゆる「フナイン版」の写本は以下の９種

(1) Cairo, Dar al-kutub, miqat 1054 (ff.103, 1100 H)

(2) Dublin, Chester Beatty 4566 (ff. 49, 10C H)

(3) Escorial, 1829/1 (ff. 6b-118a)

(4) Firenze, Laurenziana 352 (ff.236, 893 H)

(5) Nagaf, Maktabat al-Imam al-Hakam 236 (ff.72, 1136 H)

(6) Teheran, Asgar Mahdawi 486 (ff.175, 1027 H)

(7) Damascus, Zahiriya 7974 (ff.70)

(8) London, British Library or. 9115 (ff.76, 1098 H)

(9) Teheran, Danisgah 830 (ff.87)

が存在することが確認できた。後者については、さらにサービト・イブン・クッラが特に第１巻に対して語彙の説明をしていたことが一部の写本（上記の１，３，７，８）によって判明した。

その他に確認した関連するアラビア語写本は、バッターニーによるフナイン版の要約（Berlin 5875, ff.62）と著者不明の Istanbul University Library ar. 6141 (ff.36)であるが、後者は第１部を２９章に分け、第２部以降が別の著作になっている。

シリア語写本について言えば、唯一の写本である Paris, Bibliothèque nationale 346 は、冒頭から第２部第９章（ギリシア語版では８章に対応）まで、そして第３部の第３，４章が欠落している。

『テトラビブロス』第１巻第９章「恒星の力について」を、各版の間で比較することによって、以下のことが判明した。

（１）ギリシア語原典とシリア語版は、比較的よく対応しているが、シリア語訳の年代は特定することができない。

（２）ギリシア語原典とフナイン版との違いはわずかであるが、ウマル版との違いが大きいことから、ウマル版が現存しないパフレヴィー語版の系統にあるという可能性が考えられる。また、２つのアラビア語版がシリア語写本から直接翻訳されたものではないことは確かである。

（３）１２世紀にラテン語に翻訳されたアラビア語版はフナイン版である。

今後の課題としては、２つのアラビア語校訂版をさらに厳密に確定していく必要がある。そのためには、ギリシア語原典とは別にアラビア語版としての内容の統一性と一貫性を追求しなければならない。したがって、内容が不明な箇所は、１１世紀にフナイン版に対して全文注釈を行った、アリー・イブン・リドワーンによる注釈書をも視野に入れて検討していかなければならないことがわかった。現在手元にあるリドワーンの写本が全部で１２種あるとはいえ、本編の３倍近い量があり、今後長期にわたる研究が要求される。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① 山本啓二、矢野道雄
「アブー・ライハーン・ムハンマド・イブン・アフマド・アル＝ビールーニー『占星術教程の書』（１）」、『イスラーム世界研究』第３巻２号、２０１０年3月１１日、３０３－３７１頁。査読なし。

② Michio Yano, Miki Maejima, `A Study on the Atharvaveda-Parisista 50-57 with Special Reference to the Kurmavibhaga', Journal of Indian and Buddhist Studies, Vol. LVIII No.3 March 2010 [121], pp. 1126-1133. 査読あり。

③ Micio Yano[書評]S.R. Sarma, The Archaic and the Exotic: Studies in the History of Indian Astronomical Instruments}, New Delhi: Manohar, 2008, [ISIS, 100:3(2009), pp. 643-645.]査読あり。

④ 山本啓二「中世における『テトラビブロス』の伝承の研究」、『京都産業大学総合学術研究所所報』第５号、２００７年７月３１日、１－７頁。査読なし。

⑤ 矢野道雄「インドの科学の歴史」『世界歴史大系：南アジア史１』山川出版社、2007年6月、pp. 318-342。査読なし。

〔学会発表〕（計３件）

① 山本啓二「『テトラビブロス』のアラビア語写本について」、日本科学史学会、２００９年５月２４日、九州大学

② 山本啓二「なぜ占星術を研究するのか」日本科学史学会京都支部会、２００７年７月７日、京都大学

③ 山本啓二「占星術研究から見たスキファノイア宮の壁画について」ルネサンス研究会、２００６年7月１５日、学習院女子大学

〔図書〕（計２件）

① KOBAYASHI Haruo, KATO Mizue ed. Research Center for Islamic Area Studies Organization for Islamic Area Studies, Waseda University, *Transmission of Sciences, Greek, Syriac, Arabic and Latin*, 2010 March, pp. 40-41, 58-59.

② S.R. Sarma, T. Kusuba, T. Hayashi, and Michio Yano Ganitasarakaumudi, the Moonlight of the Essence of Mathematics by Thakkura Pheru, edited with Introduction, Translation, and Mathematical Commentary, by, New Delhi, 2009, pp。278.

６．研究組織
(1)研究代表者
山本　啓二（YAMAMOTO KEIJI）
京都産業大学・文化学部・教授
研究者番号：６０３２９９２７

(2)研究分担者
矢野　道雄（YANO MICHIO）
京都産業大学・文化学部・教授
研究者番号：４００６５８６８

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：